



## 湧いて、膨らんで、そして

先日の運動会、今年もあいにくの雨模様で、宮上小の体育館をお借りして実施した会でありました。

園長の日頃の行いが悪いのか、ここ10年ほどを振り返ると、それ以前と比べ、相当な確率で雨天に当たっているような気がします。今年の時期外れの秋雨前線、台風到来を考えても、地球規模で季節の変わり目も揺らいできているのかな…そう考えると、運動会どころか、それよりずっと不安にかられるのですが。

昨年と同じようなことを書いたように思うのですが、毎年のこの時期、園内の大人たちは、毎日、天気予報とにらめっこをしながら一喜一憂、運動会当日の雨天がほぼ確実となると、一様に肩を落とします。それでも、体育館での開催が終わるたびに、「これはこれでいいものだな。」と思うから不思議です。

もちろん青空のもと、大地を蹴って開放感を満喫する運動会が一番なのかもしれませんが、会場みんなの気持ち自身が次元でつなげていきたい…そう願いながら、今年のお楽しみ会も、そのスタイルの変容に挑んでいこうと考えています。

一人一人の毎日こそが大事にされる、成果よりも、活動途中に遭遇した個々に異なる経験が大事にされる…それを目指す時、見せる場としての行事とは、一体どんな意味を持つのだろうか…そう問い続ける中で、確かに…「これもいい」と感じた瞬間が、あの運動会にはありました。きつとそれは、育ちつつある目の前の子どもの姿を、その背後にある園が大事にしようとしているものを、あの場のみんなで共有できた…そんな一瞬があったからなのかもしれません。

私はここに一つの、これからの行事の持つ意味と、目指すべき方向が見えるような気がします。

それは、「園の文化を確かめ合う」場、別の言い方をすると「子どもたちの表現を通して、日々の暮らしぶり(活動のプ口セス)に思いを寄せる」場…。そこを一緒に…目指してみませんか。

園長 折井誠司

然と中央に向く、お互いの心の動きが伝わってくる…そういう点では、体育館の方が一枚上手かなとも思います。会場みんなの「気」のようなものが湧き上がり、それが四方の壁に封じ込められて…時間と共にどんどん充満し膨らんでいく…閉じられた空間には、そういった状態が起きやすいのかもしれないね。

さて、日本の保育・教育は、伝統的にこういった「行事」を軸に組み立てられてきたという側面があるように思っています。それもどちらかというところ、「集団的に表現する場」として成立しているようです。これは本来、特に乳幼児期の場合、「披露したい」「共感してもらいたい」という、子ども自身の自発的な思いが前提となるべきもので、個々の発達や個性に依拠して、その程度は様々なはず。まずは自身が夢中になる段階、家族や友だちなど、身近な人に共感を求める段階、いざれ大勢に披露したくなる段階などなど。大切なことは、先を急がず、その時々ステージを十分に経験することなのですが、運動会などの行事は、ともするとこういった個別的な発達や関心を丸ごと

## 大募集! 「みんなの作品展」

文字通り「みんな」の作品をホール一角・階段ホールに展示します。子どもたちだけでなく、保護者や地域の方々の作品を募り、作品を通じた交流の場として、創ること、表現することの楽しさを味わえたらと思います。

11月上旬の開催ですが、応募状況に応じて期間も延びる柔軟な作品展です。保護者ご自身の作品、ご友人の作品、お子さんがご家庭で作った作品など、どなたでも構いません。世には、「コレクション展」というものもあります。珍しいもの、貰ったもの、拾ったもの、買ったものでも、その人なりの思いが込められているものなら、それも作品。「モノ」を通して、みんなで交流しませんか?

押し流してしまおう…そんな危うさも合わせ持っている気がします。

実は私たちも、そういった悩ましさを難しさと向き合いながら、行事の内容を少しずつ変容させて来ており、なぜグループの「得意だ走」も、そのわかりやすい工夫の一例かもしれません。ただ、これは運動会でなくてもいいのかなと考えてみたり、0〜2歳児の行事への関わり方も、子ども自身の発達段階を考えると、再考の余地はありそうですし…行事の変容はまだまだ途上です。

そして、12月にはまた、「お楽しみ会」が控えています。運動会が「運動遊び」だとしたら、こちらは「イメージ遊び」、少し強引に言えば、前者が外遊び、後者が室内遊び…でも、それぞれにダンスがあつたり、けん玉があつたり…いずれにせよ、子どもの自発性や個々の発達に考えを及ぼすほど、それを区別することの必要性もどんどん怪しくなります。

子どもたち一人一人異なるはずの充実感や満足感、見せたいという共感意欲。そうしたものと、画一的な集団性に陥りやすい行事というものを、少しでも高い

- 編集 誠美保育園
- 発行人 折井 誠司
- 印刷所 誠美保育園
- 発行所 社会福祉法人 誠美福祉会

〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-1-2  
電話 042-697-1551  
ファックス 042-677-5643  
E-mail: sebi@nokken.jp  
http://nokken.jp/